



果樹研究所では、モモの満開は平年より4日遅く、ナシの満開は平年より8日遅く、リンゴの満開は平年より3～5日遅れました。今後は、県内の各産地でも開花が盛りとなってきますが、人工受粉等により結実確保に万全を期してください。また、この時期は凍霜害の危険性が高いので、防霜対策を徹底してください。

### 1 気象概況

4月5～6半旬の平均気温は、5半旬が8.3 で平年より4.7 低く、6半旬が10.9 で平年より2.9 低く経過しました。また、この期間の降水量は73.8mmで平年の237%でした。

表1 半旬別気象表（果樹研究所）

| 月     | 半旬 | 平均気温(℃) |      |      | 最高気温(℃) |      |      | 最低気温(℃) |     |      | 降水量(mm) |      |       |
|-------|----|---------|------|------|---------|------|------|---------|-----|------|---------|------|-------|
|       |    | 本年      | 平年   | 平年差  | 本年      | 平年   | 平年差  | 本年      | 平年  | 平年差  | 本年      | 平年   | 平年比   |
| 4     | 1  | 9.0     | 7.9  | +1.1 | 14.7    | 13.9 | +0.8 | 4.1     | 2.0 | +2.1 | 36.0    | 8.3  | 433.7 |
|       | 2  | 10.1    | 9.4  | +0.7 | 17.3    | 15.1 | +2.1 | 2.6     | 3.9 | -1.3 | 0.6     | 16.8 | 3.6   |
|       | 3  | 8.6     | 10.5 | -1.9 | 13.1    | 16.6 | -3.5 | 4.9     | 4.6 | +0.2 | 38.4    | 14.5 | 264.8 |
|       | 4  | 7.2     | 11.3 | -4.1 | 13.6    | 17.5 | -3.9 | 2.1     | 5.3 | -3.3 | 20.4    | 13.2 | 154.5 |
|       | 5  | 8.3     | 13.0 | -4.7 | 13.2    | 19.3 | -6.1 | 3.3     | 6.9 | -3.6 | 30.0    | 16.2 | 185.2 |
|       | 6  | 10.9    | 13.8 | -2.9 | 16.1    | 20.4 | -4.2 | 6.5     | 7.5 | -0.9 | 43.8    | 15.0 | 292.0 |
| 平均・合計 |    | 9.0     | 11.0 | -2.0 | 14.7    | 17.1 | -2.5 | 3.9     | 5.0 | -1.1 | 169.2   | 84.0 | 201.4 |

### 2 果樹の生育状況（農業総合センター果樹研究所）

- (1) モモ「あかつき」の開花は4月18日で平年より2日遅く、満開は4月25日で平年より4日遅れました。また、「ゆうぞら」の開花は4月19日で平年より2日遅く、満開は4月26日で平年より4日遅れました。
- (2) ナシ「幸水」の開花は4月29日で平年より6日遅く、満開は5月5日で平年より8日遅れました。また、「豊水」の開花は4月25日で平年より6日遅く、満開は5月2日で平年より8日遅れました。
- (3) リンゴ「つがる」の開花は5月4日で平年より8日遅く、満開は5月6日で平年より5日遅れました。また、「ふじ」の開花は5月3日で平年より6日遅く、満開は5月5日で平年より3日遅れました。
- (4) オウトウ「佐藤錦」の開花は4月29日で平年より10日遅く、満開は5月3日で平年より9日遅れました。
- (5) ブドウ「巨峰」の展葉は5月3日で平年より9日遅れました。

表2 開花状況

（農業総合センター果樹研究所）

| 樹種   | 品種   | 開花始め  |       |       | 満開    |       |       |
|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|      |      | 本年    | 平年    | 昨年    | 本年    | 平年    | 昨年    |
| モモ   | あかつき | 4月18日 | 4月16日 | 4月9日  | 4月25日 | 4月21日 | 4月15日 |
|      | ゆうぞら | 4月19日 | 4月17日 | 4月10日 | 4月26日 | 4月22日 | 4月14日 |
| ナシ   | 幸水   | 4月29日 | 4月23日 | 4月18日 | 5月5日  | 4月27日 | 4月24日 |
|      | 豊水   | 4月25日 | 4月19日 | 4月14日 | 5月2日  | 4月24日 | 4月21日 |
| リンゴ  | つがる  | 5月4日  | 4月26日 | 4月24日 | 5月6日  | 5月1日  | 5月1日  |
|      | ふじ   | 5月3日  | 4月27日 | 4月22日 | 5月5日  | 5月2日  | 4月30日 |
| オウトウ | 佐藤錦  | 4月29日 | 4月19日 | 4月14日 | 5月3日  | 4月24日 | 4月23日 |

表3 発芽・展葉状況

(農業総合センター果樹研究所)

| 樹種  | 品種 | 発芽    |       |       | 展葉   |       |       |
|-----|----|-------|-------|-------|------|-------|-------|
|     |    | 本年    | 平年    | 昨年    | 本年   | 平年    | 昨年    |
| ブドウ | 巨峰 | 4月20日 | 4月19日 | 4月14日 | 5月3日 | 4月24日 | 4月19日 |

### 東北地方 1か月予報 (仙台管区气象台 平成22年 4月30発表) 要約

向こう1か月の天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。また、今後の気温経過は、1週目(5月1日~7日)の気温は平年並の確立が50%、2週目(5月8日~14日)は平年並または低い確率がともに40%、3~4週目(5月15日~28日)は平年並の確率が40%となっています。

## 5 栽培上の留意点

### (1) 結実確保対策

開花期が低温や強風、乾燥条件で経過すると結実が劣る傾向があります。特に、低温条件では訪花昆虫の活動が停滞しやすいので、人工受粉を丁寧に行い、結実の確保を図りましょう。

人工受粉の際に、花粉を石松子などで増量する場合には事前に発芽率を確認し、発芽率に応じた希釈倍数で増量してください。なお、発芽率が30%以下の花粉は希釈しないでそのまま使用します。

人工受粉用に花粉を採取する場合は、できるだけ健全な花を利用しますが、凍霜害を受けた樹から花を採取する場合は、花粉の発芽率を確認した上で人工受粉に使用しましょう。

### (2) 防霜対策

開花期から幼果期にかけては、耐凍性の低下が著しく、凍霜害の危険性が高くなるので、気象情報に十分注意し、防霜対策を徹底してください。

事前の対策としては、防霜資材の準備を徹底するとともに、下草は低く刈り込み(地温の上昇を図るため)、空気や土壌が乾燥している場合は適宜かん水を実施し、土壌水分を確保(乾燥条件は気温の低下が著しいため)してください。

なお、降霜による被害が見られた場合は、被害状況を確認の上、人工受粉の徹底により結実確保を図りましょう。

### 作物別凍霜害等気象災害防止対策

#### 県内の果樹産地における生育ステージと防霜対策のための温度指標

農林水産部研究技術室のホームページに掲載していますので、参照して下さい。

<http://www.pref.fukushima.jp/keieishien/kenkyuukaihatu/gijyutsufukyuu/seiikugijyutsujyohou.html>

## 5 病虫害防除上の留意点

### (1) 病 害

#### ア リンゴ黒星病、うどんこ病

開花期前後は黒星病及びうどんこ病の重点防除期にあたります。開花直前から落花直後の防除は間隔が2週間以上空かないように注意し、開花期間が長引く場合は満開から5日程度を目安に落花直後の防除を実施しましょう。また、うどんこ病の被害葉叢は見つけ次第せん除し、適切に処分しましょう。

#### イ モモ灰星病

開花期間が長く、降水量も多かったことから灰星病による花腐れが多発するおそれがあります。花腐れは果実への伝染源となるので、見つけしだい摘除し、適切に処分しましょう。

#### ウ モモせん孔細菌病

春型枝病斑の発生は平年並と考えられますが、降雨が続くと本病の拡大が心配されます。枝病斑は葉や果実への伝染源となるので、見つけしだいせん除し適切に処分するとともに、落花10日後の防除を徹底しましょう。

#### エ ナシ黒星病

腋花芽のりん片調査によると、本年も越冬伝染源の密度が高い地域があり（県病害虫防除所）、また、開花期の降雨が続いたことから、本病の対策に十分な注意が必要です。開花直前と落花直後の防除間隔は10日以上空かないように注意しましょう。開花の遅れにより防除間隔が2週間程度となる場合には、落花直後の防除を早め、満開5日後頃（受粉が十分行われた後）から実施してください。なお、花そう基部病斑は伝染源となるので、見つけしだい必ず除去してください。

### (2) 虫害

#### ア モモハモグリガ

今後の気温が平年並みに推移した場合、第1世代の防除適期は、5月5日頃と予測されます。初期発生を抑えるため、落花10日後の防除を徹底しましょう。

#### イ ハマキムシ類

今後の気温が平年並みに推移した場合、リンゴモンハマキ越冬世代成虫の誘殺盛期は5月5半旬と予測され、リンゴコカクモンハマキもこれに準ずると予想されます。複合交信かく乱剤は、ハマキムシ類越冬世代成虫の発生前である5月3半旬頃までに設置しましょう。

#### ウ その他鱗翅目害虫

ナシヒメシンクイの防除適期は、5月1半旬～2半旬と推察されます。ミツバチ等の設置園では、巣箱回収後、速やかに防除を実施しましょう。

#### エ リンゴハダニ

今後の気温が平年並みに推移した場合、リンゴハダニのふ化盛期は5月1半旬頃であると推察されます。越冬卵密度の高い園では、落花期以降の発生密度に注意し、要防除水準（1葉当たり3頭前後）に達したら防除を実施しましょう。

#### オ カメムシ類

カメムシ類（クサギカメムシ）の越冬世代成虫による加害は、果実がごく小さいうちから発生する場合があります。特に、山間部や山沿いの果樹園では、カメムシ類の飛来状況をよく観察し、集団的な飛来を確認した場合には速やかに防除を行いましょう。

表4 主要害虫に対する防除時期の推定（農業総合センター果樹研究所：4月29日現在）

| 今後の気温予測 | モモハモグリガ      |              | リンゴモンハマキ     |              |
|---------|--------------|--------------|--------------|--------------|
|         | 越冬世代<br>誘殺盛期 | 第1世代<br>防除適期 | 越冬世代<br>誘殺盛期 | 第1世代<br>防除適期 |
| 2 高い    |              | 5月4日         | 5月20日        | 6月1日         |
| 平年並み    |              | 5月5日         | 5月25日        | 6月7日         |
| 2 低い    |              | 5月6日         | 6月1日         | 6月16日        |

注) 起算日：3月1日

#### 病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用して下さい。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。